

### 3. 農村環境の広域的な保全に向けた構想づくりに関する課題

#### 視点2 多様な環境要素・地域資源の活用

これまでの環境配慮の取組は、施設周辺の取組にとどまり、地域全体の環境保全につながっていない例が多い。また、景観配慮についても、施設の色彩などデザインの工夫にとどまり、景観と調和した良好な営農条件の確保や多様な資源の活用まで至っていない例が多数。

今後は、広域的な視点から水と生態系のネットワークの保全を進めるとともに、多様な資源を活用した景観の保全を一体的に進めていく必要。さらに、国土の保全など多面的機能の発揮や地球環境対策なども視点にいった一層広い視点からの環境保全に取り組むことが重要。

#### 広域的な視点から生態系ネットワーク保全を進める例

【国営いさわ南部地区における環境整備計画】

生態系の保全



現況水路の保全  
バイパスの新設  
(回避)



水路における生  
態系配慮  
(修正・最小化)

水と生態系の  
ネットワーク

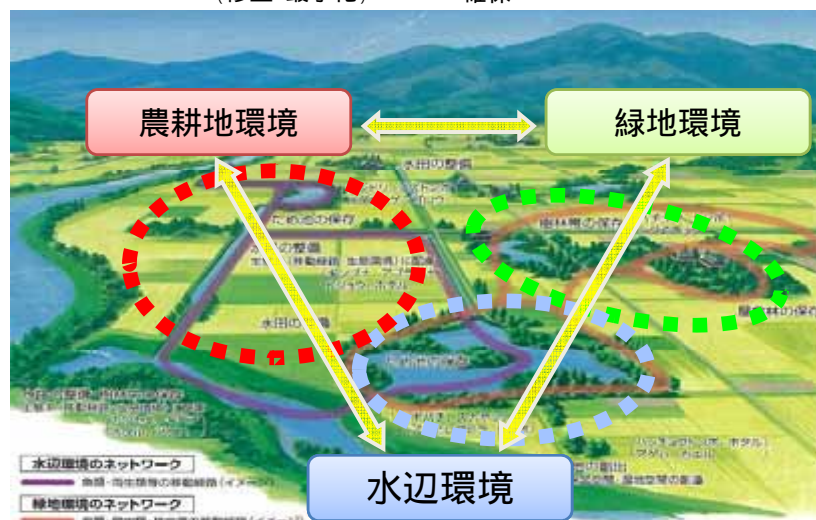


ため池・水路  
の水の連続性  
確保

景観の保全



屋敷林等の保全

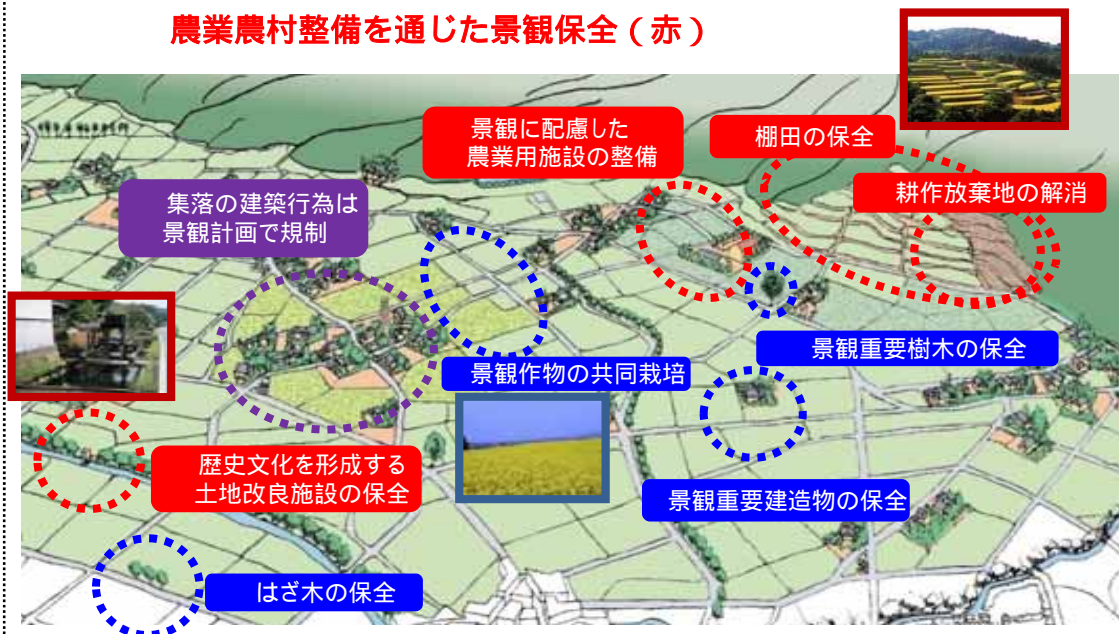


#### 地域全体で農村景観の保全を進める例

【景観法に基づく景観農業振興地域整備計画区域の全体イメージ】

土地所有者等の合意形成により、良好な農村景観を確保するため、農地の保全・利用等の方針を設定（青）

農業農村整備を通じた景観保全（赤）



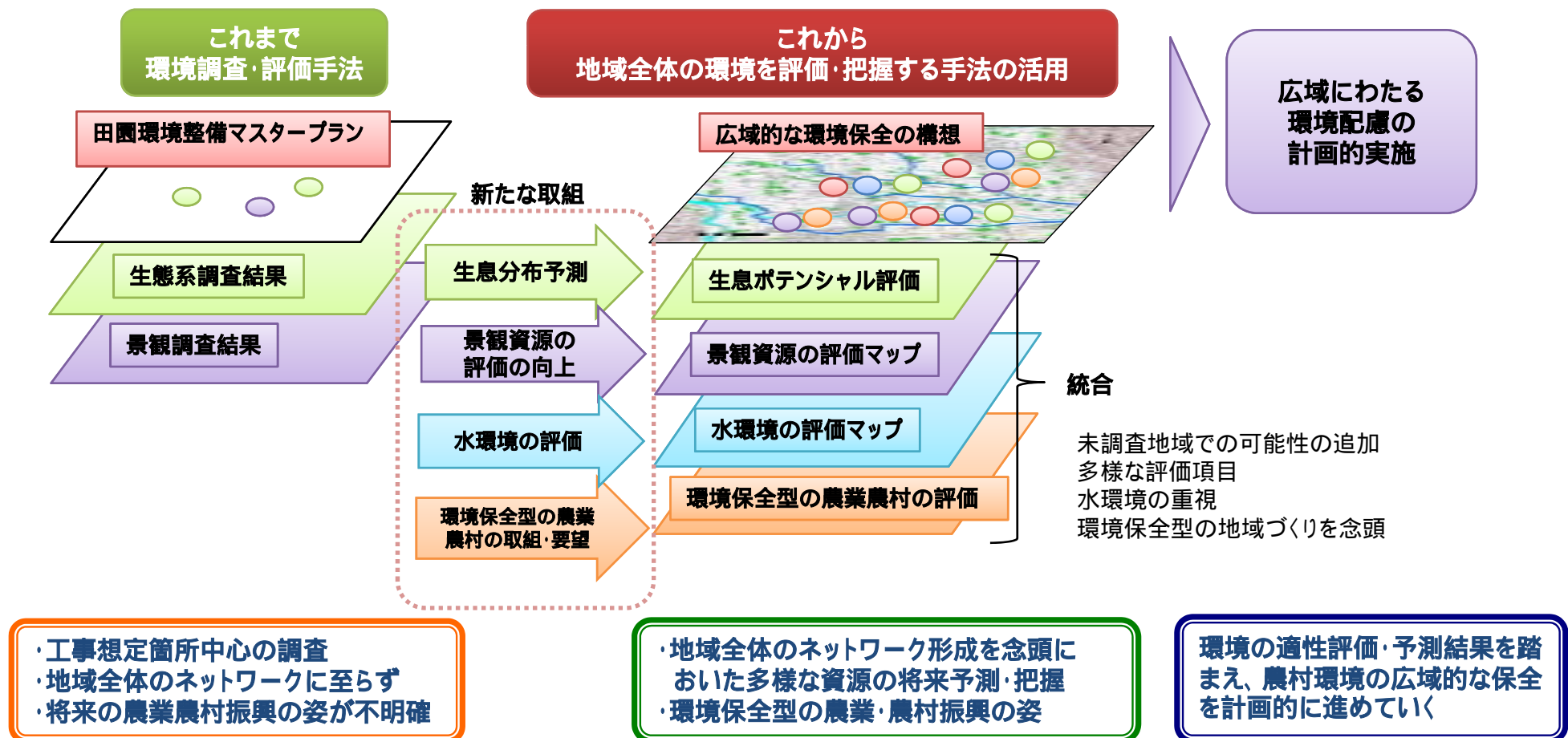
### 3. 農村環境の広域的な保全に向けた構想づくりに関する課題

#### 視点3 広域的な調査・評価手法の検討

これまでの環境配慮計画では、市町村が聞き取りにより作成した田園環境整備マスタープランを基本にしている。また環境調査については、全ての区域をカバーすることはできないことから、対象地域が偏っている場合もある。

今後、環境配慮計画の策定に当たっては、調査・聞き取りをしていない地域における環境・地域資源の機能の評価予測手法も活用しながら、地域全体の環境保全の構想づくりを行う必要。

この際、水の連続性や湿地機能などの水環境、環境保全型の農業農村の振興に係る実施・要望などについての情報収集を進め、環境配慮計画に反映していく必要。また、今後、生物多様性の把握(指標など)にも配慮していく必要。



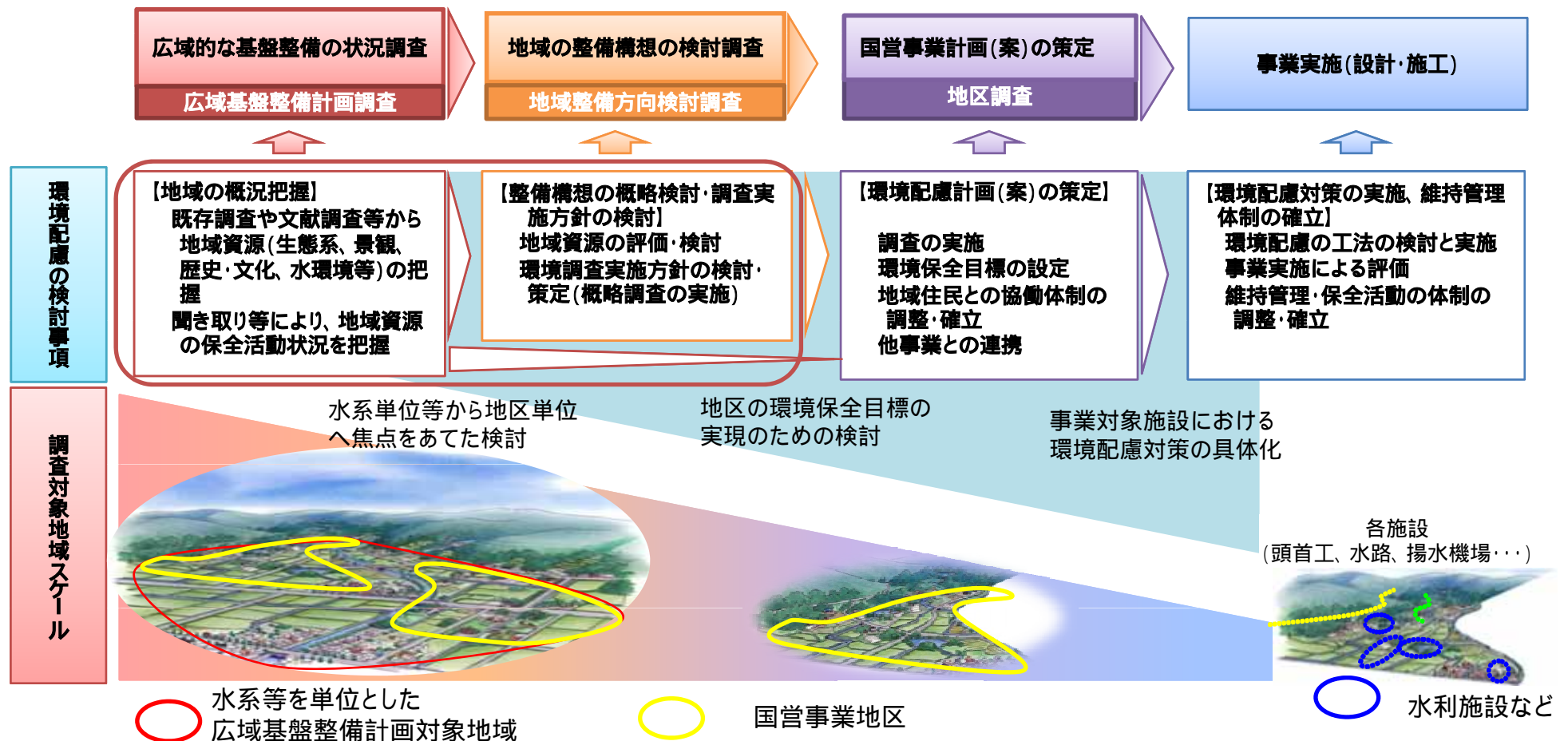
### 3. 農村環境の広域的な保全に向けた構想づくりに関する課題

#### 視点4 調査計画設計の各段階に応じた構想の具体化

農村環境の構想は国営事業の事業構想と密接に関連していることから、調査の各段階において環境配慮の取組の具体化に向けたステップアップが不可欠。

広域基盤整備計画調査、地域整備方向検討調査、地区調査の各段階において、環境配慮の技術指針、景観配慮の手引き等の具体的適用方法を明確にする必要。

環境配慮への取組による農村の振興や地域づくりを目指した各調査段階のステップアップの基本的考え方を整理する必要。





### 3. 農村環境の広域的な保全に向けた構想づくりに関する課題

#### 視点5 保安全管理・モニタリングにかかる広がりのある体制づくり

農村環境は、農業生産活動等の人の働きかけにより維持されている二次的自然であるが、水田、畑地、水路網、ため池、雑木林など、営農や水利用を通じて相互に関係する多様な要素で構成され、人との関わり合いの様態もそれぞれ異なっている。また、このような多様な人との関わり合いの様態は、構成要素ごとのみならず総体として地域ごとでも異なり、また上下流など地域間でも相互に影響を及ぼしあっている。

今後、農村環境の広域的な保安全管理・モニタリングを進めるに当たっては、このような農村環境と人の関わり合いの特徴を踏まえ、広がりのある体制づくりに向け、さまざまな観点から検討が必要。

